

# 秋 田 県 書 道 連 盟 会 報

第 130 号

秋 田 県 書 道 連 盟

事務局

秋 田 市 泉 野 一 丁 目 18-1

三 浦 湯 舟

発 行 人 長 沼 雅 彦

編 集 広 報 部

(題 字 : 長 沼 雅 彦)

<http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>

## 反省と希望と

秋田県書道連盟理事長 長 沼 雅 彦



される課題であった。したがって、ことあるごとにこの大会の意義を知人、関係者、そして連盟の会員に吹聴して協力を仰いできた。その結果、第一回から一定の参加者を得ることができ、徐々にその数を増やしてきたのであった。それがこの度の結果である。

このことをふまえて、とりあえず連盟の正副部長会議を開催し、その原因を検討し、新たな方策を考えていかなければならないと思っている。

確かに全国でも一段と顕著な傾向をみせる秋田の「少子高齢化」という言葉は思い浮かぶ。連盟の会員も高齢化によって大分減少してしまった。(理事長もあぶない)そして少子化による書道教室の生徒減少はまた顕著である。しかし、このことと、この度の参加者減を簡単に結びつけるつもりはない。会員の皆さんとともにもう一度回復の努力をしていこうと思っている。

さて、文章が暗くなってきた。ここで口直しを……。新年研修会では佐川会長のお話を聞くことができた。「新聞の力とは」と題して一時間半。全く退屈するいとまもなく、聞きほれてしまった。聴衆の興味を引く内容を精選する。同時に様々な映像を加える。話題をある一定の時間ごとに変えてテンポよく展開させていく。ということであった。「大学の講義を学生の興味関心を引きつけたまま展開させるための方法。」という内容の

であった。計画はスムーズに進行し、魁新報事業部の方々の手馴れた仕事ぶり、連盟会員の協力も充分であり、順調に準備された。この会の特徴である県内の武道、文芸、芸道関係に加え、今回はステータス・ダンススタジオの方々によるダンスのオープニングも華やかに、新春の雰囲気盛りあげていただいた。翌日の魁紙面はグラフ折込でにぎやかに報道されており、その面でも非常にありがたいものであった。つまり、大会自体は、きつちりと運営された。

しかし、実態は肝心の参加人数が、前回席書大会より、大幅に減っていたのである。実を言えば、私は内心このことを最も危惧していた。「参加者数は大丈夫かなあ」これが、第一回から最も懸念

著書を現役のころ参考のため読んだ覚えがあるが、確か同じようなことであったと思いついた。新年会の後は、近くのスナックを貸しきり、二十余名で盛り上がった。カラオケでは、特に新入会員の三人、それと歳の近い四十代のバリバリ(?)が場を盛り上げ、新しい力強い風を感じて嬉しいことであつた。

このようにして、希望もあるのである。これから連盟の展覧会、研修会等行事もひかえている。会員の積極的ご協力を願う。



5年ぶりに開催された秋田県新春書初め席書大会



授賞式にて、お祝いの言葉を贈る理事長

# 第15回秋田県新春書初め席書大会

### 主催

秋田魁新報社  
秋田県総合公社  
秋田県書道連盟

大会 令和6年1月7日(日)  
会場 秋田県立武道館

展覧会期 令和6年1月25日(木)～28日(日)  
午前10時～午後5時(初日は正午から、最終日は午後4時まで)  
展覧会場 さきがけホール

「書初めを通じて伝統文化の再認識を図り、書道文化の振興並びに書写・書道教育の充実に寄与する」ことを目的に、毎年開催されています。

秋田県立武道館の改修工事、新型コロナウイルス禍により、公募開催していましたが、今年は5年ぶりの通常開催となりました。応募は320点。幼児・小学生、高校生、大学生、一般の4部門。

弓道と居合道の演武や、茶道と華道の実演もあり、日本文化に触れる絶好の機会となっています。ご提供いただいた俳句や短歌等を同連盟会員が書で表現した「書と文芸のコラボ」、能代松陽高校書道パフォーマンスも行われました。



新春武道演武



オープニング ステータス・ダンス スタジオの皆さん



席書大会 みんなで写真撮影



能代松陽高校書道部による書道パフォーマンス



薄茶席

秋田県華道連盟による生け花のデモンストレーション





幼児から一般まで、力作が一堂に展示されました

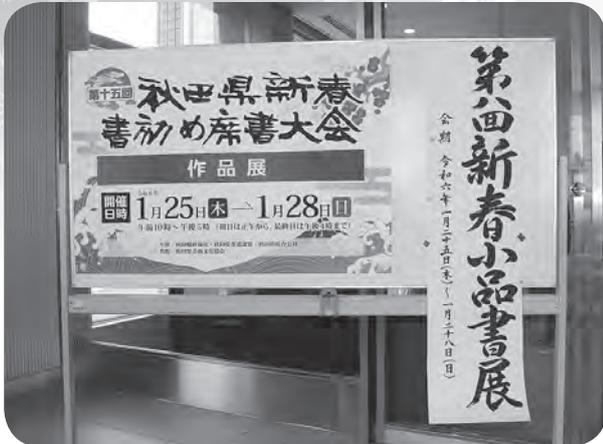


長沼理事長から、「ここにいらっしゃる皆さんの作品は、完成度が高く、一生懸命練習したところがよく分かります。若い皆さんが書に親しみ、頑張っていることは大変嬉しく思います。心から応援したい気持ちでいます。また来年も出品して下さい。」とあたたかいメッセージを贈りました。



1月28日(日)、授賞式が行われました。

# 第8回新春小品書展



「本展は拘束のない独自の発展を重んじ会員相互の親睦と本県書道文化の向上に寄与すること」を目的に、毎年開催されています。今年には78点の出品がありました。

**会場** さきがけホール

**会期** 令和6年1月25日(木)～28日(日)  
午前10時～午後5時  
(初日は正午から、最終日は午後4時まで)

**主催** 秋田県書道連盟



**那** 墨痕あざやか **波**

あなたの筆勢を伝える筆。  
「書」の心をうつす墨、紙。

**那波紙店**

〒010-0921  
秋田市大町四丁目3-35  
☎ 018-823-4311 (代)

**総合書道用品販売**

- ◎ 展覧会・企画・展示
- ◎ 〈表具〉〈額装〉〈軸装〉
- ◎ 各種展覧会搬入搬出承ります
- ◎ 文房四宝・低価格にて提供しております

株式会社 **クラヤ**

〒010-0952 秋田市山王新町4-5  
TEL 018-863-6001 FAX 018-863-6004  
ホームページアドレス <http://www.1ocn.ne.jp/~kuraya>  
メールアドレス [kuraya@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:kuraya@seagreen.ocn.ne.jp)

# 第86回秋田書道展覧会

※写真は秋田魁新報社提供

主催 秋田魁新報社

会期 令和5年10月28日(土)～11月1日(水)

午前10時～午後5時

会場 アトリオン

小学生から一般まで腕を振るう、県内最大規模の公募展です。審査主査の石飛博光さんと県内書家が審査し、入賞376点、入選164点が決まりました。

本連盟会員の魁星賞、一般一科(推薦、特選、秀作まで)を紹介します。おめでとうございませう。

## ▼魁星賞

魁星賞 「与謝野晶子の歌」 佐々木青爛



## 「魁星賞をいただいて」

佐々木 青爛

このたびは栄えある「魁星賞」を賜り、誠にありがとうございます。私も偏に県書道連盟理事長・長沼先生をはじめとする本書道展審査の先生方、連盟会員皆様のご指

導ご支援と深く感謝申し上げます。そしてともに歩んでまいりました書友の皆様に感謝申し上げます。

今回の作品は与謝野晶子の短歌を書きました。理由は、ふだん私は俳句に題材を求めています。本展では半切タテを推奨されているため、俳句だとしても一行書きになります。これだと鑑賞する側からすると単調を否めないからです。しかし近代の詩文の場合は著作権の問題が残ります。このため中央書展の著作権リクエストでチェックして該当しないことを確認してから制作に入りました。歌に込められたころの思いを表現できたらと念じながらも反故の山と時間を重ねました。そんな中、濃淡のハッキリした今作品を選び出品させて頂きました。今後ともよろしくお願い申し上げます。



## 一般一科

### 【自運漢字】

#### ▼推薦

小坂 白悠 (秋田市) 東海林龍文 (秋田市)

#### ▼特選

八柳 竹耀 (仙北市) 齊藤 英知 (秋田市)

#### ▼秀作

深井 春祥 (潟上市) 佐々木采嘉 (横手市)  
古田 柯香 (秋田市) 道川屋 悟 (秋田市)

### 【臨書漢字】

#### ▼推薦

田村 芳汀 (秋田市) 佐藤 晃山 (井川町)

#### ▼特選

嶋野 青城 (秋田市) 佐々木汪心 (秋田市)

#### ▼秀作

深井 春祥 (潟上市) 佐藤 穎 (潟上市)  
小玉 豊光 (五城目町) 川田 直政 (秋田市)  
齊藤 孝快 (大仙市)

### 【自運かな】

#### ▼推薦

嶋野 青城 (秋田市)

### 【調和体(近代詩文)】

#### ▼推薦

石川 抱鶴 (秋田市)

#### ▼特選

堀井 直子 (由利本荘市) 畑中 裕子 (由利本荘市)  
岡本真貴子 (由利本荘市) 佐々木幸子 (由利本荘市)

#### ▼秀作

遠藤美美子 (由利本荘市) 横山 和秋 (由利本荘市)  
阿部 公美 (秋田市) 三浦 芳流 (由利本荘市)  
熊谷 貞子 (由利本荘市)

### 【篆刻・刻字】

#### ▼推薦

熊谷 貞子 (由利本荘市)



第3会場 高校生条幅・一般二科 (自運漢字、臨書漢字)



第4会場 一般一科 (自運かな、臨書かな、大字書)  
一般二科 (自運かな、臨書かな、調和体)



第2会場 (小学生条幅・八つ切り・硬筆・中学生条幅)

# 第10回日本美術展覧会

主催 公益社団法人 日展

日展は、明治40年から続き116回を数える美術展。日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5部門があります。本連盟会員から小松紫峯さんが入選しました。おめでとうございます。

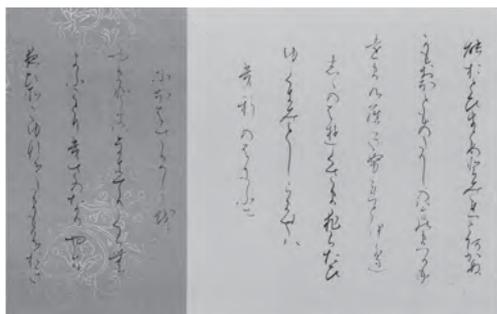
## 「日展に入選して」

小松 紫 峯



2年ぶり8回目の日展入選を果たし、しみじみ嬉しい気持ちになりました。来年度の日展会友の資格を得たことがつきました。作家として、指導者として、体力・気力の続く限り、精進して参りたいと思います。

これまで色々な形で私を支えてくださった方々に、心より感謝申し上げます。これからも、どうぞよろしくお願いたします。



作品名「旅」

# 実技研修会

日時 令和5年10月8日(日)  
午後1時半～午後4時半  
会場 協同大町ビル

【講師】  
漢字部門 講師 黒木天  
仮名部門 講師 根北天  
篆刻部門 講師 佐藤直  
ICT部門 講師 竹村祐哉



研修会後の和やかな懇親会



開会式



熱心に耳を傾ける参加者

# 新年研修会

日時 令和6年1月21日(日)  
午後2時～午後3時半  
会場 イヤタカ

【講師】佐川博之 会長  
演題 「新聞の力とは」



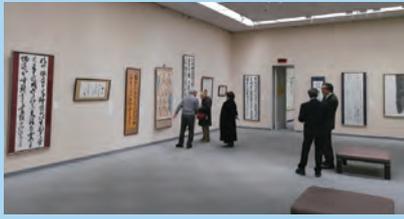
話題になった県内ニュースや秋田魁新報お題字等、興味をそそる内容で時間があっという間に過ぎました。



新年を迎え、益々の発展を願い和やかな懇親会

# これまでの主な展覧会 (連盟会員所属団体)

第62回秋田市書道会展  
(R6.3.1～4 アトリオン)



千田寿山小作品展  
(R6.1.4～2.29 井川町農村環境改善センター)



第11回公雅会書展  
(R5.9.30～10.1 横手市交流センターY²プラザ)



第63回全県新年書きぞめ展  
(R6.3.2～4 秋田県立美術館)



第19回毎日書道秋田新春展  
(R6.1.12～15 アトリオン)



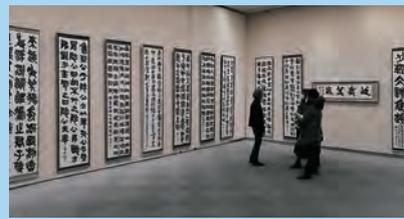
第41回秋田墨瀆容友会書道展  
(R5.11.3～6 花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」)



第49回秋田県秀作美術展  
(R6.3.7～10 秋田県立美術館)



第46回瀧の会書展  
(R6.1.19～21 アトリオン)



第22回秋田一先会書展  
(R5.11.18～20 アトリオン)



第11回書遊会展  
(R6.3.8～11 五城目町 五城館)



第19回由利本荘美術展  
(R6.2.3～7 由利本荘市文化交流館「カダーレ」)



第66回秋田市芸術祭総合美術展  
(R5.11.28～12.3 アトリオン)



千田寿山個展  
(R5.12.1～R6.1.8 八郎潟町えきまえ交流館はちバル)



美術表装一式  
掛軸、和額、屏風、襖

## 中山表具店

〒011-0917 秋田市飯島道東二丁目4番10号  
TEL 018 (846) 8496



# 「書道」がユネスコ無形文化遺産候補に選定される

昨年の十二月十八日、国の文化審議会は、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産登録を申請する候補に「書道」を選定しました。

今後、今年の三月末までにユネスコ事務局へ申請書が提出され、二〇二六年十一月頃のユネスコ政府間委員会で登録可否が決まる見通しです。

書道は、筆や硯といった用具を使って手書きする文字表現で、漢字の伝来や仮名の発展とともに生活に浸透し、二〇二二年には、国の登録無形文化財になりました。

そして、日本文化の多様性や深みを世界に発信していく観点から、今回書道が候補にふさわしいと判断された一方で、最近ではパソコンやスマートフォンといったデジタル機器の普及により、日常生活の中で書道に触れる機会は格段に少なくなってきたのが現状です。

文化庁によると、書道用具の生産額は、一九九〇～二〇一七年で文具は約十分の一、和紙は約六分の一にまで減少。かつての暮らしに根差した「実用の文房具」とは言えず、生産の担い手も減っています。それだけに、書道のユネスコ無形文化遺産登録に対する関係者の期待は強く、全国規模での署名運動の実施により、二万四千件以上もの賛同の声が文化庁に届けられたことも奏功しました。

日本では、能楽や歌舞伎、和食といった十二件がユネスコ無形文化遺産にすでに登録済みですが、書道が登録されることで、日本国内で改めて注目され、その魅力が見直されることが期待されます。

書道がそのチャンスは今一回頂いたことで、業界の益々の発展・継承と「和食」に代表される世界的なブームがまた新たに起こるよう、来たる二〇二六年の登録に向け、我々連盟を含めた書道関係者は何をすべきか考えていく必要がありそうです。

## 「世相あれこれ」

広告部長 上野 泰夫



に御礼申し上げます。

今回は130社に連絡しました。書初めが40社、小品書展は新規に11社追加して78社、合わせて118社の広告を取ることができました。合計金額は98万8千円の収入となります。小品書展の目録パンフの配布と集金に、時折吹雪の中、10日間かかりました。

ところで、コロナが落ち着いて県内をはじめ首都圏、関西、北陸で講演をして来ました。懇親会の話題から：岸田内閣の支持率が20%台と最低、最悪。安倍元首相はイエスマンを側に置き、意見を異にする人は排除したという。(前川)元文科次官の話とはないうた。こますり、諂い、忖度など。議員も長すぎると支持者が減って最後は落選する。原因は様々ですが、じゃあ天を食べたことがありますか、知事が言うほど不味くて貧乏くさくはなかったですね。

余談です。長年ある高校の放送部の指導をしています。全県放送コンクールで最優秀賞を受賞、全国大会出場を決めました。嬉しい限りです。右手親指を骨折した。うまく箸が持てない、字が書けない、情けない話ですが：

天空に向かって舞い昇る龍のように、気持ちの上向きになるような一年にしたいと思います。今後共、宜しくお願い致します。

## ようこそ秋田県書道連盟へ

### 新入会員紹介

筒井敏秋 齊藤英知 中川大輔 堀田聡弥  
小松 素

秋田大学大学院医学系研究科医学博士

### 齊藤英知先生に 突撃インタビュー!!

皆様、初めまして！秋田大学医学部附属病院の整形外科に勤務しています。よろしく伺っております。



### 書をはじめたきっかけは？

外来では、初診の方、手術が必要な方、術後の方、リハビリの方とさまざまな方がいらつしやいます。特に術後のリハビリについては、理学療法士が治療の中心を担うわけですが、医師は全てを統括しています。その中で、話すだけではなかなか伝え切れない部分や、また伝わらない部分も多く、何かインパクトのあるメッセージの伝達方法がないかを考えてみました。47歳にして、気がついたらポケットに筆ペンが入っていました。筆ペンでメッセージを書いて渡したところ、意外にインパクトがあることに気付かされました。

### 今後の書の目標は？

「書家」になりたいです。50歳にして「書家」になりたいと思います。48歳から始めました。小松紫峯先生から「お手本なしでかけるのが書家」とご指導頂きました。まだまだ道のりは遠い……。これからは一段一段、階段を登るように精進していきたいと思えます。

## 会員募集

日頃から本会の運営につきましては、格別のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

本会は、より多くの書道を愛好する皆様に活躍と研修の場、作品発表の場、会員相互の情報交換の場などとしていただくため活動しております。

会員は随時募集しておりますので、事務局までお問い合わせ下さい。

事務局 秋田市泉菅野一丁目18-1  
三 浦 湯 舟

### 今後開催予定の主な展覧会

第31回瀾の会小品展  
令和6年4月12日(金) ～ 4月14日(日)

アトリオン3階  
10時から17時まで  
(初日は12時から、最終日は16時まで)

第55回六葉會書展  
令和6年4月12日(金) ～ 4月15日(月)

アトリオン2階第1展示室  
10時から17時まで  
(初日は12時から、最終日は16時まで)

第9回秋田藍笥会展  
令和6年5月17日(金) ～ 5月19日(日)

アトリオン2階第1・2展示室  
10時から17時まで

総務部・広報部に届いている展覧会を掲載しております。ご了承ください。

## 編集後記

5年ぶりの秋田県新春書初め席書大会とともに、本連盟の活動が新年幕を開けました。久しぶりに顔を合わせたという方も多く、随所に笑顔が見られたことも印象的でした。

各種展覧会も通常に戻りつつあります。今年は呉昌碩生誕180年を記念した展覧会が各地で開催されています。詩・書・画・篆刻に精通し並外れた才能で四絶と称されています。そんな呉昌碩も生涯石鼓文の臨書に励んでいます。古人の名品に触れ、学ぶことの大切さを再認識したように思います。

また前回号で秋田県立近代美術館学芸主事(兼)班長木村雅洋先生にご執筆いただいた企画展「アキタの書・その魅力」。近代書の確立、郷土秋田への愛情が感じられ、パワーをもらったように思います。

ユネスコ無形文化遺産提案へ向かっている今、若い世代へ確かな「書道」を伝えていかなければ…と思う今日この頃です。  
(広報部一同)

## 秋田県書道連盟ホームページが新しくなります。

来年度の総会后、リニューアルできるよう、現在準備中です。

## 情報社会に育つ

株式会社 塚田美術印刷

本社工場 / 〒010-0921 秋田市大町一丁目6番6号

TEL 018(823)5551(代)

FAX 018(823)5553

URL : <http://www.akita21.com/tsukada/>  
E-mail : [tsukabi@cna.ne.jp](mailto:tsukabi@cna.ne.jp)

秋田県唯一の  
月刊教育書道誌

書友

～おかげ様で創刊71周年～

書友社

〒010-0954 秋田市山王沼田町11-11

TEL 018-862-3484 FAX 018-862-3485

MAIL [shoyusha-akita@outlook.jp](mailto:shoyusha-akita@outlook.jp)

